

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500687		
法人名	株式会社日本医療事務センター		
事業所名	グループホームきらめいと土気		
所在地	千葉県千葉市緑区土気町446-6		
自己評価作成日	平成23年10月21日	評価結果市町村受理日	平成24年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1270500687&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	平成23年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「心」を大切に職員全体でご入居者様が日々笑顔で楽しく生活していただけるケアに努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心」という理念を掲げ、職員と共有し、入居者の心に寄り添うよう日々の業務に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れを行っている。日常的な交流まではいかないが、夏祭り等の行事の際に協力して頂くなど徐々に機会は増えてきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内の体制確立を優先させたため、現状は取組めていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、地域包括支援センター職員、民生委員、介護相談員、町会長、入居者家族と意見交換を行い、実際のサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢施設課とは、必要に応じて電話やメールで連絡を取っている。千葉市認知症高齢者グループホーム連絡会、千葉市相談員の意見交換等を通じて話し合う機会を作っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向けて、所内研修では身体拘束について職員全員が参加し学び、言葉による拘束もないよう意識し実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が講師として研修を行い、職員すべてが学べる機会を持ち、日々の業務を通じて職員に意識付けし防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に周知出来ていないため、制度について全員が理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、不明な点がないか確認を行い、分かりやすいように説明している。退居時は事前に十分話し合い、納得頂いた上で手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は近況報告をし、その際家族からの意見も聞いている。意見、要望は運営に活かせるよう努力している。介護相談員も月1回2名来訪され運営上活かせるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議や随時個別に面談を行い、意見や提案を聞く機会を設け、検討を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与に関しては本社が管理しているが改善には努力している。 研修会議を定期的に行う環境づくりに心掛け、スキルアップを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人にはエルダー(相談役)を設けている。 法人内外の研修への参加や毎月職員で構成した研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内が必要に応じ、系列事業所を訪問し、サービスの質を見直し向上させる取り組みを行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない入居者に対しては特に気を配り、環境変化で不安も多いため、特に声掛けし本人の話を聴き、不安や求めていることを職員間で共有し、信頼関係を築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのコミュニケーションを十分取るようにし、困っていること・不安を感じていること等話す機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験入居して頂き、本人が共同生活に馴染み、生活を送れるかを見極め、難しい場合には、他のGhや施設等を紹介するなどの支援は行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔話を聞き、一緒に笑ったり悲しんだり共に過ごしている。また、生きる力を学び、生きる知恵を教わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が安心して楽しく暮らせるよう家族と協力しあい、職員も家族の一員とした考えを持ち、本人を支えられるような関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にも協力して頂きながら支援を行っている。入居前から行っていた趣味サークル等継続している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その月の状態を把握し、精神的に落ち込み部屋に閉じこもり気味な方は職員の関わりを増やしている。 職員と同行し、重度の方のお見舞いに居室訪問されることもある。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去理由は様々であるが、退去後の関係はほとんどないが、必要に応じ本人(施設)への訪問を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの人格を尊重し、入居時の事前把握のみならず、日々の生活の中で希望意向が汲み取れるよう心掛け、職員で検討、共有に努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時事前調査において把握された生活歴等の記録は個人ファイル内にて管理し、必要に応じ全職員が閲覧できる。また、日々の会話の中で得られた新たな情報は記録に残し共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する暮らしの現状を職員間で正しく共有できるよう、毎朝のミーティングでの意見交換や日報、申し送りノートを出勤時に読むことで把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者担当者が中心となりアセスメントを実施(少なくとも半年に1度)し、計画作成担当者と気付きや意見を出し合いながら、本人、家族の意向も踏まえ、ご本人が穏やかにより楽しくホームで暮らし続けて頂けるよう介護計画を作成し、少なくとも2ヶ月に1回のモニタリングを実施している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ホーム内でケア計画に関する反省と勉強会を実施したことで、日々の様子や気づきをより詳細に記載できるようになってきた。日々の実践と介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が対応しきれない受診等はホームで対応している。また、ご本人の体調の変化に応じて、主治医変更の相談、支援も実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア(尺八、コーラス、フラダンス傾聴)の来所が定期的であり、家族会の方々のボランティア(毎週のウクレレ演奏会、イベントの手伝い)に参加して下さり、楽しい時が増えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の7割が「地元の在宅診療所」を主治医とし月2回の往診と、24時間体制の医療を受けている。他の方は御家族が希望され、ホームとの関係も長い地元の医療機関を主治医とし、ホームが受診等の支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がホーム常勤職員として入職したことにより、協力の対英が強化された。週1回の訪問看護との連携も強化され適切な支援ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の情報が的確に伝えられるよう、「介護要約」を作成し、個人ファイルに格納。入院時に活用している。また、地域の病院関係者(事務局、ソーシャルワーカー、医師)との関係作りのため、訪問や地域勉強会への参加も実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでは看取り支援も実施しており、ターミナルに向かう可能性が見えた、出来るだけ早い段階で、ご家族(本人)の意向を確認し方針を共有している。24時間体制で診て頂ける「在宅診療所」の医師、その併設の「訪問看護ステーション」の看護師とともにチームで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間事業所内研修では、少なくとも年1回は「緊急時の対応」の訓練を実施。本年度は看護師職員による研修に合わせ、訓練回数を増やし実施中である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施。緊急時連絡網にて速やかな対応を心掛けている。夜間の緊急連絡に輪番制の責任者を置き、モチベーションの向上と迅速化を図っている。昨年度に比べ地域の方々との交流は急速に進んでいる。今後災害対策での協力体制を検討していきたい。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念である「お一人おひとりを思いやる心」をモットーに、穏やかに対応している。また、本社の指導の下、個人情報管理を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で決めたり、思いを表したりできるよう傾聴する時間を大切に、そこでの内容を日常の生活で実行できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝は一人ひとりの体調やペースを大切にしながら行っている。日中の過ごし方も、その方らしく、また希望にもできるだけ沿えるよう企画、実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けをしながらその方に似合うちょっとしたおしゃれを心掛け介助している。また、希望に合わせて理美容院の利用を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様のADL低下に伴い、調理を手伝って頂くことは困難になっているが、盛り付け、テーブル拭き、食器洗いでは、男性入居者を中心に毎回手を貸していただいて、ご本人達の役割となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体機能や健康状態に合わせた食事形態と量を提供し、日々の体調に合わせた調整も行っている。毎日の食事量と水分量は記録として残し、確保の支援につなげている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時は実施できているが、毎食後の口腔ケアは出来ていない。拒否のない方から確実に実施できるよう支援していきたい。必要に応じ、週1回の訪問歯科医による治療、指導を受けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせ、声掛け誘導を行い、出来る限りおむつを使用しないよう、失敗の無いよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量をチェックし、バランスの良い食事を心掛け、体操や個別の散歩も実施している。便秘がちな方は、主治医や看護師による処方、指導、措置を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	重度の方にも特浴等は使用せず、職員2人体制で家族風呂を楽しんでいただいている。介護量の多い方が大半を占めるため、入浴は時間帯を決めざるを得ないのが現状。それ以外での希望時や失禁時には対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動的に過ごすことで安眠を促すよう支援している。不眠時はお話を聴いたり、飲み物を提供したりして、暫く過ごすこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬情報は個人ファイルに収め、合わせて服薬管理票として一覧に集約し、理解促進と服薬ミス防止に役立てている。症状の変化の報告は、ホーム内看護師、主治医に伝え、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのお力とお気持ちに合わせて何らかの役割をお願いすることで、笑顔と張り合いと穏やかさを引き出している。検討を重ねその幅を広げていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じに入居者と職員でドライブや外食に出かけたり、希望時に家族と共に楽しく外出できるよう積極的に支援している。今後は地域の人々の協力を得られるよう話し合っていきたい。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	社内ルールによりホームでは入居者様の現金をお預かりすることが中止になったため、外出(買物)支援時は、以前にご家族とお約束した物品内、金額内の範囲でホームが立て替えて、後日ご家族に請求させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、電話でお話して頂けるよう支援し、投函依頼があれば、切手等を確認(購入)し、投函を代行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は幅広く、浴室、トイレは両手に対応可能な左右対称のゆったりとしたスペースになっており、建物の数ヶ所に天窓を設け自然の明るさを大切にしている。また、リビングから見える中庭は広く、草花や作物で季節感を感じることができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	検討を重ね、現在リビングでは自立度の高い方のテーブルと、介助量の多い方のテーブルに分け、穏やかに楽しくお仲間と過ごせるよう支援している。ソファ等は各々がゆっくり過ごせるスペースとして使用している。また、一層穏やかに、笑顔で過ごして頂くため、日中のみ他のユニットで過ごして頂く試みも実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は好みにより洋室、和室が選べ、使い慣れた馴染みの家具等を使用しておられる方も多い。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、居室の壁には全て手摺を設置し、トイレ、浴室も左右対称2つのタイプがある。今ある身体機能を完全に活かせるよう支援している。		